

平成27年度事業報告書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

iichiko 総合文化センター及び県立美術館の管理運営事業

平成27年4月に県立美術館が開館し、これまで管理運営を行なってきた iichiko 総合文化センターと併せて、事業実施や管理業務において両施設を連携させ、スケールメリットを活かした効果的、効率的な運営を行なうとともに、利用者のための円滑な施設運営と良質なサービスの安定的な提供に努めた。

また、iichiko 総合文化センターと県立美術館が大分県における芸術文化の拠点として、「出会いと融合、そしてネットワーク」をキーワードとした、芸術文化の融合による新たな価値の創造に取り組むとともに、地域における課題に対して芸術文化の分野から解決に向けてアプローチした。

総じて、iichiko 総合文化センター、大分県立美術館ともに、非常に多くの来館者が訪れており、「芸術文化ゾーン」としてふさわしい賑わいを創出している。

1-1 管理業務の実施状況に関する事項【共通事項】

(1) 施設の利用、維持管理に関する業務

- 第三者委託業務について、スケールメリットを活かすため、一部の業務について総合文化センターと美術館を一体的に管理できるように同じ業者に委託した。
- 県立美術館開館を受け、センターホール入場口前への美術館専用チラシスタンドの設置に加え、美術館ではセンターホール事業のチラシを設置した。
- 美術館で開催された企画展の前売券販売を集客・連携の一環として iichiko 総合文化センターインフォメーションで実施し、両施設に足を運んでもらえるような情報提供に取り組んだ。
- iichiko 総合文化センターで定期的に美術館への誘導を館内放送し、互いの施設の利用促進を図った。
- 両施設の駐車場については、片方が満車になったときの誘導を徹底し、効率的運営に努めた。

(2) 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

- 広報室が中心となって、事業を跨いだ共同広告やプレスリリースなど効果的、効果的な広報に努めた。
- 財団機関誌により、県立美術館や iichiko 総合文化センターのイベント情報を中心に幅広い情報を発信した。
- 月間イベントカレンダー、ホームページ、メールマガジン、JR大分駅デジタルサイネージ、FaceBook、Twitter 等により、芸術文化に関する情報を発信した。美術館のフェイスブックでは4,900を超える「いいね!」、ツイッターでは6,

- 000件以上のフォロワーを獲得し、きめ細かな情報発信を行った。
- 芸術文化ゾーン創造プロジェクトによる商店街との連携の一環として商店街等でのポスターの掲示、チラシの配布等の広報活動に努めた。
 - 県内メディアや実績のある芸術文化団体が主催する質の高い公演について、主催公演と同様に情報提供を行った。
 - 美術館の開幕展や各企画展に関して、県内宿泊施設やJR九州の福岡、熊本、宮崎等の各駅等でのポスター掲示やチラシ配布等を重点的に実施した。
 - 大分県公立文化施設協議会の会長館として、各施設の主催事業を取りまとめ（ホール・ナビ）、財団ホームページや新聞広告等を通じて県内外に情報発信を行った。
 - 美術館開館に関する情報提供をマスコミに対して継続的に行ったほか、開館日前後にはテレビ局各社の中継等への対応により、開館PRを図った。
 - 美術館開館前日に、美術品借用先美術館館長や出品作家等が出席する記者発表、ボストン美術館所蔵「龍虎図屏風」高精密複製品寄贈記者発表、マスコミ、来賓等向け内覧会等を実施し、美術館事業の情報提供を行った。
 - 当財団主導で、大分市美術館、ホルトホール大分、iichiko 総合文化センター、大分県立美術館の共同広報コーナーを各施設に設置し、共同広報に努めた。

1-2 管理業務の実施状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 施設の利用及び利用者の便宜供与に関する業務

- 施設の利用手続きについては円滑に利用者と調整し、クレームやトラブルといった事態は認められなかった。
- 安全対策を徹底した結果、盗難、事故などの事例は発生しなかった。
- iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行い（平成27年度実績：7件）、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。
- 利用開始時間（9時）の事前延長、利用終了時間（22時）の事後延長を合わせて56回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。
- 利用料金の収受において、問題となる事例はなかった。
- 福岡を拠点とするコンサートプロモーターや医学学会の大手プロモーターを訪問し、スケジュール確認や利用促進活動、施設案内等を含めた営業活動を行なった。

(2) ネーミングライツの運用

- 三和酒類(株)とパートナーシップ業務実施契約を締結し、次の業務を実施した。
 - ・パートナーシップ冠事業の表記（4事業）
 - ・三和酒類(株)に対する冠事業チケットの提供
 - ・公演のチラシ等における「iichiko」の表記
 - ・ホール利用者に対する iichiko オリジナルグッズの提供の代行

- ・両ホールにおける iichiko オリジナルグッズの展示

(3) サービス改善提案事業に関する業務

○比較的舞台芸術に接する機会の少ない子どもたちが、生の舞台を体験できるように、財団主催9公演に、大分市、別府市以外の遠隔地に居住する小学生（保護者・引率者含む）339人を招待した。

1-3 管理業務の実施状況に関する事項【美術館】

(1) 美術品等の収集、保管、展示及び利用に関する業務

- 美術品等の保管に関しては、展示及び保存の環境を適正に維持するため、収蔵庫および展示室等の日常的な空調管理を行うとともに、常時データを記録した。
- 美術品等の管理に当たっては、機会ある毎に収蔵庫内の作品整理に努めるとともに、展示室では学芸員による作品の目視点検を日常的に実施した。また地震発生等の非常時には、速やかに展示室、収蔵庫等で作品の状態チェックを行った。
- 4月24日の開館以来、ほぼ二ヶ月を目処に年間6期にわたってコレクション展を開催し、近現代日本画、近世美術、工芸、洋画、彫刻などのコーナー毎に、大分の美術を中心にした作品611点を紹介した。展示にあたっては、季節感のある会場になるよう作品選定に配慮したほか、近世美術や工芸のうち、脆弱な素材のものや、保管上注意を要する作品については、会期中、展示替えを行った。
- 27年度に2回開催された、大分県立美術館美術資料評価委員会において、当該美術資料の説明等を行った。
- 芸術会館に残っていたコレクション作品を移送するとともに、収蔵庫内の整理を行った。
- 11月10日から13日まで、佐伯市のまな美市民ギャラリーを会場に「所蔵作品巡回展」を、12月14日には玖珠町の玖珠中学校で「スクール・ミュージアム」を開催し、地域での鑑賞機会を提供した。
- 東京文化財研究所とガラス水平折り戸の可動検査についての報告・協議を行った。

(2) 美術品等の調査及び研究に関する業務

- 芸術会館より移送した図書および作家資料等の整理を継続的に行った。
- 収集対象作家および県関係作家とその作品について、情報収集に努めるとともに機会ある毎に調査を継続した。
- コレクション・カタログおよび開幕記念展 vol.1「モダン百花繚乱『大分世界美術館』」カタログの編集作業を前年度に引き続き行った。
- 開館記念展 vol.2「神々の黄昏」カタログの編集作成を行った。

(3) 美術に関する講演会、講座等の開催等、教育普及に関する業務

- 開館記念展の開催にあわせ、県、県教育委員会とともに全県下の小学生約6万人を美術館に招待する「小学生ファーストミュージアム体験事業」を実施し、児童

に対する鑑賞レクチャーを行った。

- 毎週金曜日は、夜間開館の時間帯を利用して中学生から一般を対象にワークショップやレクチャーを行う「夜のおとなの金曜講座」、土曜日は子どもから大人まで年齢に応じたワークショップや鑑賞を行う「みんなの土曜アトリエ」、日曜日は手仕事を通じて創作を楽しむ「アトリエミュージアム」を開催し、新しい視点から美術に親しむ機会を提供した。
- 定期的に OPAM サポーターを対象に、コレクションや美術館業務に関する研修会を開催した。
- 開館記念展 vol.1「モダン百花繚乱『大分世界美術館』」関連事業として、「開館記念国際シンポジウム」、「出品作家によるワークショップ&レクチャー」、「『ユーラシアの庭』展示作家によるワークショップ&レクチャー」、「開館記念国際交流イベント」を開催したほか、展示解説として「百花繚乱解体トーク」を実施した。
- 竹田市教育研究会図画工作・美術部会の依頼で、教員向けワークショップを実施した。
- 「『描く!』マンガ展」関連事業として、出品作家やマンガ評論家によるトークイベント、ワークショップを5回にわたって実施した。
- 中学校文化連盟中学校芸術講座「身体で見る展覧会」を開催した。
- 七夕スターライトエクスプレス関連事業としてワークショップを実施した。
- 学校連携事業として県内各地の小中学校に出向いてのワークショップ開催や支援学校の生徒を美術館に招いての鑑賞会、学校の先生のためのワークショップ等を実施した。
- アウトリーチ活動として「姫島ジオミュージアム」を姫島小学校で開催した。
- 開館記念展 vol.2「神々の黄昏」関連事業として、国内外の展覧会関係者や学識経験者による「国際シンポジウム」、宇佐神宮に出向いての「ワークショップ」などを開催したほか、展示解説として「イブニング・ギャラリー・トーク」を実施した。
- 舞踏家の菊池びよ氏を講師に招いて「身体のワークショップ ワタシと向き合う」を実施した。
- 「身も心も!現代アートに恋い焦がれて」展の関連事業として、出品作家や個人コレクターを招いてのトークイベントを開催するとともに、展示解説として「イブニング・ギャラリー・トーク」を実施した。

2-1 自主事業の実施状況に関する事項【芸術文化ゾーン】

(1) 芸術文化の拠点づくり事業

- 県立美術館の開館準備及び開館後の商店街でのPR方法等について、協議・依頼を行った。
- 近隣商店街役員等をメンバーとする大分県芸術文化ゾーン創造プロジェクト実行委員会を5回開催し、事業実施方針や内容等の協議及び実施体制等の情報共有を図った。

- 8月7日から9日までの間、「Tanavata Starlight Express 2015」と題して、県立美術館と iichiko 総合文化センターを核とした「芸術文化の拠点」から、大分市の七夕祭りとの連携し、美術館、文化センター、国際交流プラザの情報発信を行い、アート、パフォーマンス、文化等が融合した事業を実施した。
- 12月19日から25日までの間、「Heart of Christmas! 2015」と題して、県立美術館と iichiko 総合文化センターを核とした「芸術文化の拠点」から、ネットワークづくりと賑わいづくりのため、商店街等と一体となって、アート、パフォーマンス等が融合した事業を実施した。
- 芸術文化短期大学との連絡会議を2回開催し、27年度の連携事業の状況や28年度の事業計画などについて、報告・協議を行った。
- 10月に商店街関係者等を対象として、美術館企画展の事前説明会を実施した。

(2) ネットワークづくり事業

- 大分県公立文化施設協議会を2回開催し、26年度事業報告・決算や27年度事業計画・予算等を審議するとともに、共同広報・共同研修等の連携事業の実施内容及び状況について報告・協議を行った。また、職員のスキルアップを図るためホールスタッフ研修会や広報研修会を開催した。
- より多くの県民が本物の舞台芸術に気軽に触れる機会を増やし、県内における新たな音楽ファンを掘り起こすなどすそ野の拡大を図るとともに、文化ホールスタッフの公演開催に関するノウハウを共有するため、臼杵市との共同企画として臼杵市市民会館でコンサートを開催した。
- 県立芸術文化短期大学とのネットワーク事業の一環として、6月と8月にサービスマナーの学生を延べ37名受け入れ、emo スタッフによるレセプション基礎研修やミュージカル公演においてレセプション活動を実施した。また、インターンシップの学生3名を受け入れ、演奏会においてレセプション活動を行うなど財団の業務を体験してもらった。
- 芸術文化ゾーンを活用した新たな展開研究会で提言された「創造の場」の試験的実施のために、7月に創造の場づくり実行委員会を設置した。
- 8月に大分銀行赤レンガ館1階にオープンした創造の場「赤レンガ」において、9月・10月にまちなか情報を集めたインフォメーションスペースを設けて情報発信を行ったほか、展示やミーティングを行った。また、10～11月に「赤レンガ」の締めくくりとして、大型アートイベントを実施し、期間中多くの若者や家族連れが訪れ賑わった。
- 12月宇佐神宮において、県内の美術館・博物館の学芸員、美術関係者、高校生を対象に、九州国立博物館の島谷館長による講演会を開催した。
- 12月に「神々の黄昏」展の地域連携として、宇佐市観光協会の観光みくじコーナーを設置し、地域のPRを行った。
- 12月28日から1月9日までの間、商店街の協力を得て、近隣5神社から神輿を借用し、美術館アトリウムに展示した。
- 2月に一般財団法人地域創造との共催で、「公立文化施設のマネジメントについ

て」の研修会を開催した。

2-2 自主事業の実施状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 鑑賞系事業

オペラ・バレエ、オーケストラ・室内楽、ミュージカル・演劇、歌舞伎・文楽等の伝統芸能の4本を柱とし、年間を通じて、幅広いジャンルの質の高い舞台公演を財団の企画により実施した。特に、バレエ「ドンキホーテ」では、世界的ダンサー首藤康之演出・振付により、おおいた洋舞連盟からオーディションで選ばれたダンサーと国内で活躍するトップダンサーたちの競演によるバレエと、地元参加の特別オーケストラの生演奏による華麗な公演を開催した。

(2) 人づくり事業

「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」結成7年目の活動として、定期演奏会、病院での出張コンサート、Heart of Christmasなどでアウトリーチ活動を展開したほか、初心者向けの楽器体験やレッスンを行うアカデミッククラスの基盤強化と対象者の拡大に取り組んだ。

また、財団が主催・共催する公演等に、公募ボランティア「emo スタッフ」をホールレセプションリストとして活用するとともに、他館のレセプション活動を視察したほか、主催公演を前にレクチャーを開催したり、学生にレセプション活動を指導するなど、多面的なスキルアップを図った。

(3) 普及系事業

芸術文化の普及・拡大を目的として、初心者でも気軽に親しめるように、歌舞伎やオペラのレクチャー、邦楽ワークショップ、ミュージカル体験ワークショップ等を開催した。

また、新たにオーディションにより採択した若手演奏家を派遣し、遠隔地に居住し日頃クラシック音楽に触れる機会の少ない人にクラシック音楽の楽しさや生の演奏の迫力を身近に味わってもらうアウトリーチ活動を実施した。

(4) 文化事業を担う人づくり

文化事業担当職員の研修の充実を図るとともに、公演時のアンケート調査等を活用して県民ニーズの把握に努め、自己評価を行うことにより、サービスの一層の向上と業務改善、職員の意識改革を図った。

2-3 自主事業の実施状況に関する事項【美術館】

(1) 質の高い魅力的な企画展の開催

○4月24日から7月20日までの会期で、開館記念展 vol.1「モダン百花繚乱『大分世界美術館』大分が世界に出会う、世界が大分に驚く『傑作名品200選』」を開催。国内外の美術館が所蔵する名品と、大分を代表する作家の代表作200余点を併せて紹介した。会期中6月9日から21日にかけては、九州では初公開となる国宝・長谷川等伯「松林図屏風」を東京国立博物館から借用し展示した。

- TOS テレビ大分と実行委員会を組織し、8月1日から30日までの会期で「進撃の巨人展-WALL OITA-」と「360°体感シアター“哮”」を開催した。
- 8月1日から9月23日までの会期で、「『描く!』マンガ展～名作を生む画技に迫る-描線・コマ・キャラ」を開催。生原画約300点のほか多数の資料類を展示したほか、創刊60周年を迎える少女マンガ雑誌『なかよし』とのコラボレーションで、歴代表紙パネルの紹介やお絵描き体験コーナーを設置した。
- 10月31日から1月24日までの会期で開館記念展 vol.2「神々の黄昏-東西のヴィーナス出会う世紀末、心の景色、西東」を開催。オーストリア演劇博物館から借用したウィーン世紀末の画家クリムトの「ヌーダ・ヴェリタス」を中心に、宇佐、国東の八幡信仰や神仏習合に係る文化遺産から神秘思想に感化された現代美術まで、145点の作品や資料を展示、公開した。
- 1月23日、24日に、「神々の黄昏」特別協賛の三和酒類株式会社提供の焼酎などをそれぞれ先着120名の鑑賞者にプレゼントとして配付した。
- 2月12日から3月13日までの会期で「身も心も!現代アートに恋い焦がれて-利岡コレクション+大分アジア彫刻展」を開催し、利岡誠夫氏が蒐集した現代アート等127点に、朝倉文夫記念美術館が収蔵する大分アジア彫刻展入賞作18点を併せた作品を展示、紹介した。

(2) 館内サービスの充実

- ミュージアムショップではこれまで事業者と企画・開発を行ってきたオリジナル商品の販売、カフェでは各企画展と連携したメニュー提供等を行なった。
- 情報コーナーでは、美術全般や企画展、大分ゆかりの作家等に関する閲覧用図書の提供等を行なった。
- 1月1日から3日の間、企画展鑑賞者への駐車場利用サービス及び着物での来展者への企画展無料対応等を行なった。
- 2月から、来館者に対して、建物やアトリウム展示等を紹介する、OPAM サポーター館内ガイドツアーを実施した。

3 友の会事業

- iichiko 総合文化センター1階インフォメーション・大分県立美術館1階インフォメーションを窓口として、案内及び入会・更新手続を行った。3月末の会員数は7,083人。
- 有料会員が特典を受けられる「びび SHOP」の新たな加盟依頼を行い、「びび BOOK」を発行した。
- 友の会主催による、ミニコンサートやレクチャーなどを、大分県立美術館等で年間9回実施し、参加者の好評を博した。
- 大分県立美術館企画展内覧会や、トークイベント、交流会、意見交換会等、会員向けのイベントを、県内各地で、年間12回実施し、参加者の好評を博した。
- 有料会員向けに、財団イベント等の最新情報を2ヶ月に1回程度郵送した。
- 有料会員向けに、会報紙「びび PAPER」を年間5回発行した。

- 会員向けに、月2回メールマガジンを送信し、情報提供を行った。
- 県内企業及び公共団体等を訪問し、会員募集および継続更新依頼を行った。
- 年度末に期限を迎える会員約2千名に更新案内を発送し、更新の促進に努めた。

4 国際交流事業

(1) 県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり

① 基本的な情報の収集・提供

おおいた国際交流プラザにおいて県民と在住外国人が自由に集い、情報を交換しあえる空間づくりを目指すとともに、人権啓発フェスティバル等に参加することにより、国際化に関する基本的な情報の収集と提供を行った。

② 多文化共生意識の醸成

「大分七夕まつり」に呼応し、日本人と外国人のふれあいの場を提供し、「多文化共生」を県民に広PRする場として、「国際七夕フェスタ2015」を開催し、在住外国人による各国の民族衣装・民族音楽によるパフォーマンス、市内商店街のパレードなどを行った。

③ 多文化共生の地域づくり

国際経験豊かな講師の話や外国人講師による国際理解講座の開催により、多文化共生概念の地域社会への普及に努めた。

(2) 在住外国人の生活支援や県民・在住外国人への情報発信

① 在住外国人の生活支援

居住、子育て、離婚、在留資格等で悩みを抱えている在住外国人を対象とする生活相談及び在住外国人支援のための登録ボランティアの拡充とスキルアップ研修を実施した。

② コミュニケーション支援

ホームページの運営や機関誌の発行、SNSの活用による情報発信に加え、ボランティアを活用した通訳・翻訳のコーディネートを行うなど、県民と在住外国人相互のコミュニケーションを促進した。

(3) 国際交流に深く関わりのある団体等への支援

① 他機関との連携・支援

日本語教室の運営や海外との文化・スポーツの交流活動を行う国際交流団体を支援するとともに、在住外国人を支援する各種団体との連携を図った。

② 国際人材の育成推進

コーディネーターの配置や相互訪問のマッチングにより、青少年の交流を進め、異文化体験を通じた生徒・児童の国際相互理解を深める団体や行政機関との連携に努めた。

5 スポーツの振興

(1) 地域のスポーツ振興

スポーツ振興事業基金を財団内に設置し、「総合型地域スポーツクラブ」等の12のスポーツ団体に対して助成を行った。

(2) (株)大分フットボールクラブへの貸付金管理

平成17年9月に大分トリニータを運営する(株)大分フットボールクラブへ貸付けた2億円については、平成25年3月をもって償還が完了した。

また、平成22年11月に融資された2億円についても、平成24年から遅滞なく償還が行われた。毎月の経営状況の報告を受けるなど情報の把握に努めるとともに、県と連携して滞りなく返済されるように貸付金の管理を行った。

6-1 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 各施設の利用状況

① iichiko グランシアタ (大ホール)

○平成27年度の利用件数は215件(前年度の利用件数は228件、過去5年間の平均件数は223件)

○内訳は、音楽142件、舞踊30件、演劇13件、その他(講演・大会)30件

○利用率は85.7%(前年度の利用率は86.7%、1.0ポイントの減)

② iichiko 音の泉ホール (中ホール)

○平成27年度の利用件数は224件(前年度の利用件数は213件、過去5年間の平均件数は233件)

○内訳は、音楽137件、舞踊21件、演劇8件、その他(講演・大会)58件

○利用率は85.5%(前年度の利用率は81.9%、3.6ポイントの増)

③ iichiko アトリウムプラザ

○平成27年度の利用率は52.4%(前年度の利用率は51.5%、0.9ポイントの増)

④ 会議室

○平成27年度の利用率は51.9%(前年度の利用率は55.0%、3.1ポイントの減)

⑤ iichiko スペース・ビー

○練習室の平成27年度の利用率は92.6%(前年度の利用率は88.5%、

4. 1ポイントの増)

○県民ギャラリーの平成27年度の利用率は69.7% (前年度の利用率は73.8%、4.1ポイントの減)

○映像小ホールの平成27年度の利用率は54.8% (前年度の利用率は44.3%、10.5ポイントの増)

⑥ 駐車場

○駐車場の平成27年度の入庫台数は235,592台 (前年度の入庫台数は246,182台、10,590台の減)

(2) ホール入場者実績

○平成27年度の iichiko グランシアタ入場者数は178,730人、前年度の入場者数は195,637人 (16,907人の減)

○平成27年度の iichiko 音の泉ホール入場者数は、60,982人、前年度の入場者数は55,786人 (5,196人の増)

○両ホール合わせて239,712人。前年度の入場者数 (251,423人) と比べ、11,711人下回った。

(3) 目標指標の達成状況

大分県立総合文化センターの管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間ホール利用率87.0%以上に対し、平成27年度の実績は85.6%と目標にわずかに届かなかった。

6-2 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項【美術館】

(1) 各施設の利用状況

(以下、すべて4月24日の開館以降の数値)

① 展示室 A

○企画展と貸館利用を併せての利用日数は、320日 (26催事)。

② 展示室 B

○企画展と貸館利用を併せての利用日数は、329日 (7催事)。

③ 研修室

○貸館、教育普及事業を含め利用日数は147日

④ アトリエ

○貸館、教育普及事業を含め利用日数は236日

⑤ アトリウム

○美術館事業としてマルセル・ワンダースの「ユーラシアン・ガーデン・スピリット」等の美術作品を無料で鑑賞していただけるよう、年間通して展示した。

⑥ 駐車場

○入庫台数は79,495台

(2) 来館者実績

年間来館者数は642,505人

(3) 目標指標の達成状況

大分県立総合文化センターの管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間来館者数50万人以上に対し、平成27年度の実績は642,505人と大きく上回った。

7-1 利用者満足度調査に基づく課題分析の結果、業務改善の実施状況及び自己評価
【総合文化センター】

(1) 利用者満足度調査の実施状況

① 調査の概要

3月に施設利用者646人を対象に利用満足度に関する、一斉アンケートを実施した。(234人回答、回答率36.2%)

② 結果分析

一斉アンケート調査結果の分析は次のとおり。

ア 利用回数

○ほとんどの施設において2回目以上の利用が90%以上となっており、リピーター率が非常に高い。

○今後は、リピーターを確保しながら、新規利用者を獲得することが必要

イ 利用理由

○これまでの調査と同様に、「立地がよい」、「施設・設備が充実」を選択した利用者が多く、「料金が適正」、「知名度が高い」が続く。

○「立地がよい」は前年度の58.9%から78.2%と19.3ポイント増加しており、昨年度競合が影響しているものと思われたホルトホール大分の影響は感じられない。

○また、「サービスがよい」が前年度の11.5%から26.7%と15.2ポイント増加しており、努力の成果が出ている。

○知名度を理由とした利用は昨年度の24.7%から12.0%と12.7ポイント低く、「立地」「設備」「サービス」がよい事で安心してご利用いただいていることがわかる。

ウ 利用料金

○「普通」が51.6%、「少し高い」が35.6%と大半を占める。

○「少し高い」の比率は昨年度調査の34.1%から8.5ポイント増加している。会議室と映像小ホール利用者の回答において顕著であり、ホルトホール大分との価格差が影響しているものと思われる。

エ 職員の対応

○「やや満足」以上が77.8%、「普通」を含めると99.6%と高い評価を受けた。

- 「不満」の回答はなく、「やや不満」という回答は1件と昨年度の4件よりも減り、今後さらなる自己研鑽や研修によるスキルアップにより全ての方に満足いただける対応を目指す。

オ 利用申請手続き

- 「簡単」が61.3%と昨年度の調査からさらに増加し、「面倒」も7.1%と昨年度より減少している。引き続き事務改善により可能な限りお客様負担の軽減を図る。

カ 利用満足度

- 「ほぼ満足」が一番多く52.9%、次に「大変満足」が29.3%、「普通」の16.4%を合わせると98.6%となり、ほぼ全てのお客様に満足していただいている。
- 「不満足」以下は1.3%と少ないが、満足度100%を目指す。

キ 次回利用

- 「是非使いたい」と「使いたい」の合計が80.4%と次のご利用を希望されるお客様が大半を占めるが、「検討する」という回答も19.1%あり、次回の利用を獲得するためのアプローチが必要である。

(2) 業務改善の実施状況

施設利用者や入場者からの意見、要望に対して、次のとおり業務改善を行った。

- 施設利用時の駐車料金が負担である。
 - ・昨年度試行した、施設と駐車場の一体的利用の促進を目的とした練習室利用客対象の1時間（200円）の駐車場割引券提供を継続実施した。
- プロジェクタが古い。
 - ・経年劣化や映像機械の進歩により古くなった映像小ホールのプロジェクタを新型に交換した。
- 映像小ホールの照明が暗い。
 - ・会議室として利用するには若干くらいというご意見をいただいていたため、天井部に間接照明を20台増設した。
- ホールの展示パネルが汚い。
 - ・経年劣化により汚れが目立つようになっていたホール展示パネルのクロス補修を行った。
- 県民ギャラリー利用時に中が見えないようにしたい。
 - ・催事内容によっては外部からの目隠しができるようにスクリーンパーテーションを購入・設置した。
- 演台が汚い。
 - ・経年劣化により傷が目立つようになった会議室と映像小ホールの演台を新規購入した。
- 経年劣化による備品の新規購入や修繕。
 - ・このほか開館から17年経ち、経年劣化の見られる各備品の買い替え、展示用パネルのクロス交換、楽屋イスのキャスター交換等を実施した。

(3) 指定管理者としての全体的な自己評価

① 成果指標とその分析

ア 施設利用状況

a 利用件数

- 平成27年度の利用件数は、iichiko グランシアタが215件、iichiko 音の泉ホールが224件。
- 前年度と比較して、iichiko グランシアタの利用件数は減少したものの、iichiko 音の泉ホールは増加した。
- 土・日・祝日の利用は飽和状態であり、予約受込日に希望が重なった場合はできるだけ双方に利用していただけるよう利用調整を行った。

b 利用率

- 平成27年度の iichiko グランシアタ、iichiko 音の泉ホール、両ホール合わせた利用率は累計で85.6%となり、目標指標87.0%にはあと一歩であった。
- 利用率向上に向けた対応策
 - ・平日を含み、多くの利用が期待できる、県内主要メディア7社及び県内芸術文化団体6団体に出向き、施設利用促進のための営業活動を行なった。
 - ・舞台技術スタッフ、清掃、警備と連携をとりながら休館日の利用（グランシアタ4件を含む7件）を希望するお客様を最大限に受入れ、利用率の向上を図った。
 - ・会議室、練習室については、類似施設となるホルトホール大分の影響もあり、利用者が減少している。地道な営業活動や接客対応等により、1件でも多くの利用者獲得に努める。

c 入場者数

- 平成27年度における入場者数は、iichiko グランシアタが178,730人と前年度より減少した一方、iichiko 音の泉ホールは60,982人で全年度より増加した。
- 前年度と比較して、両ホール合わせた総入場者数は減少している。ただし、入場者数に関しては経済状況や催事数はもとより、催事内容・規模に起因する要素が大きい。また、主催者となる施設利用者からは、近年どこの会場でも集客に苦勞するという声を聴いている。

d 地下駐車場利用状況

- 平成27年度も練習室利用者延べ1576名に対して駐車料金サービスを継続した。駐車場利用料収入の増額に合わせ、減少傾向であった練習室の利用件数も増えるなど、相乗効果を得られた。平成28年度も当該サービスを継続していく予定である。

イ 自主文化事業（主催事業）（別紙資料参照）

a チケット売上比率（チケット売上枚数／チケット販売可能枚数）

○チケットの売上比率は、バレエ「ドン・キホーテ」が97%、「宝塚歌劇団雪組」が昼夜平均98.0%で評価A（85%以上）、「ワンコインリレーコンサート」が3回平均83.4%で評価B（85%～75%）となった。他の9公演は評価C（75%以下）にとどまった。

○娯楽の多様化や厳しい経済情勢の影響等によりチケット販売の低迷は全国的な傾向と言われているが、文化情報として新聞記事にしたり、メディアの共同主催として広告を実施するなどにより、売上向上に成功した試みもあったので、引き続き新たなチケット販売戦略の立案や広報宣伝戦略の練り直し等、集客に向けてより一層努力したい。

b 経費の自立度（チケット等売上額／公演総経費）

○事業効果を高めながら経費節約に努めた結果、「松竹大歌舞伎」「宝塚歌劇団雪組」が評価A（70%超）、その他の公演が評価C（50%以下）となった。

○いずれも入場者からは、「素晴らしい公演を見ることができた。」「同様の公演をまた開催してほしい。」、などの感想が多く届けられており、良質の公演をより多くの県民に鑑賞いただけるよう、PRの媒体や内容をこれまで以上に工夫するとともに、これまで舞台芸術に関心のなかった人たちにも本物の舞台を鑑賞する機会を提供し、ファン層の拡大を図ることにより、質の高い公演を継続できるよう運営に工夫を凝らしたい。

c 当日入場者比率（入場者数／チケット提供枚数）

○当日入場者比率は、12公演全てが評価A（90%超）となり、購入者の公演への関心の高さをうかがわせた。

○今後もホールの機能を活かした魅力的な公演の開催を工夫すると同時に、より効果的な広報・営業を通じて入場者を増やすよう努力していく。

② 業務の取り組み内容に関する評価

ア 施設及び設備の維持管理及び修繕

○日々状態の変化する施設において、常に職員が高い安全意識を持ち、併せて関係機関との連絡調整を徹底することにより、質の高い施設の管理・運営を行った。

○エレベーターや舞台設備など専門性を有する部分については、業者による定期点検を実施し、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立することができた。

○小規模な修繕については財団で対応していく一方、長期的視点からの大規模改修については県施設整備課と連携しながら計画的に取り組むことができた。

○地下駐車場についても大きなトラブルもなく、入出庫及び駐車管理を円滑に行った。

イ 施設の利用及び利用者の便宜共用

a 施設利用に係る申込受付等の対応

- 施設利用の受付では、新規の利用者はもちろん、リピーターに対しても、円滑な利用が出来るよう、施設概要の十分な説明を行った。特に県立美術館に関しては利用が見込まれる団体に対して貸出方法等について事前に説明会を開催し、混乱のないように努めた結果、トラブルもなく推移している。
- 総合文化センターの利用にあたっては、必ず施設利用者、舞台技術スタッフ、財団職員の三者で打合せを行なっており、催事の円滑な実施が図られた。このとき作成した利用計画表などの運営記録を保存しており、次の催事をより充実したものにするための貴重なノウハウとなり、財団職員のスキルアップにもつながっている。
- 利用当日においては、巡回やモニターチェックにより、施設利用者が何をしているか、何に困っているかを常に把握し、場合によっては直ちにフォローすることで、気持ちよく施設を利用していただくことができた。
- 1階インフォメーションコーナーには財団職員が直営で、施設予約の受付、友の会入会、チケット販売、駐車券販売等、ワンストップでお客様対応が可能な総合窓口業務を実施した。特に、美術館企画展の前売りチケット販売を行うことで両施設の連携に努めた。

b 臨時開館及び利用時間延長

- iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行い（平成27年度実績：7件）、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。
- 利用開始時間（9時）の事前延長、利用終了時間（22時）の事後延長を合わせて56回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。

c お客様からの要望や意見等への対応

- より身近に利用者の声を受け入れる環境づくりを進め、集まった多くの意見・要望に対し、できることはすぐに対応し、各関係機関と協議しながら必要なものについては予算を確保したうえで実現に努めた。

d 職員研修の実施

- 「全国公立文化施設協議会九州支部技術研修会」では、当館が会場館を務め、九州各地のホール担当者が参加し、研修を実施した。施設の円滑な運営を行うためのノウハウを学び、今後は、施設利用者との打合せ等でその成果を活かすことができる。

ウ 自主事業の実施

鑑賞系事業

- 県立美術館開館記念公演「十二夜」では、ミュージカル「レ・ミゼラブル」

を手がけ、ロイヤルシェイクスピアカンパニーのディレクターも務めるジョン・ケアードによる演出、グランシアタで過去開催された演劇史上最大規模の豪華な舞台セット、元宝塚歌劇団トップの音月桂の一人二役（双子兄妹役）という見どころ満載の舞台に745名の会場は大いに沸き、カーテンコール時は最後まで拍手がなりやまなかった。

- 県立美術館開館記念公演「赤坂×クス・クアルテット＜室内楽コレクション第一弾＞」では、生演奏に触れる機会の少ない弦楽五重奏曲を演奏するなど、室内楽の幅広さを知っていただく演奏会となり、来場者を大いに満足させる公演となった。
- 県立美術館開館記念公演「ビバ★エスパーニャ」は、スペイン音楽に精通する東京二期会のエキスパートによる歌、ピアノ、ギター、舞踊などで構成する異国情緒たっぷりのステージを開催し、440名が大いに沸いた。
- トッパンホールと共同制作した、iichiko presents「日下紗矢子×マーティン・ヘルムヘン ヴァイオリン・デュオリサイタル＜室内楽コレクション第二弾＞」では日下紗矢子とマーティン・ヘルムヘンによるコラボレーションで、モーツァルトからシューベルトまでの短い期間の器楽曲の発展を感じることが出来るコンサートを開催した。この共同製作公演における、総合プロデュースは、iichiko 総合文化センターが行った。
- iichiko presents ミュージカル「南太平洋」は、県内におけるミュージカル文化普及の為、映画演劇文化協会協力で開催。終演後、1,430名の観客は、スタンディングオベーションとなり、最後まで拍手はなりやまなかった。
- 「ハインツ・ホリガーとゆかいな仲間たち＜室内楽コレクション第三弾＞」では、現代の最も多才で非凡な音楽家の1人であるハインツ・ホリガーと国内外で活躍する実力者たちによる演奏に加え、大分だけの特別共演として県内在住の鍵盤楽器奏者小林道夫を迎えて開催した。
- 県立美術館開館記念バレエ「ドン・キホーテ」は、大分が誇る世界的バレエダンサー首藤康之氏を迎え、大分オリジナルの全国に発信できる自主制作バレエ公演となった。満席の中、約1年半の稽古を重ねてきたおおいた洋舞連盟の研究生達と日本でトップクラスのダンサー達との共演は、芸術性が非常に高く、終演後、マスコミ各社から賞賛の声が相次いだ。
- 「ワンコインリレーコンサート」は、500円という低価格で一流の音楽家による多様なジャンルの音楽を楽しめるということで、多くの方々に来場していただくことができた。徐々に本来の値段で音楽を楽しもうという層を育てていきたい。
- iichiko presents「松竹大歌舞伎 大分公演」では、尾上菊之助を筆頭に、テレビでもおなじみの尾上松也が出演。日本文化の演技・演奏・技に昼夜合わせて1,427名が感動した。
- iichiko presents「宝塚雪組 大分公演」は、3年ぶりの大分公演で、地元大分出身の蓮城まことが出演するという事もあり、昼夜合わせて3,6

75名という多くのお客様にご来場いただいた。会場は大いに沸き、特に第2部のレビュー公演は衣裳・セット共にとても華やかで、会場全体を魅了した。

○オペラ「さまよえるオランダ人」は、仕込みに3日間要し、最高の舞台を制作したうえ、国内トップクラスのオペラ歌手により上演され、絶賛された。中でも合唱は、日本を代表する合唱団3つ（東京二期会合唱団、藤原歌劇団合唱団、新国立劇場合唱団）が勢ぞろいし、その迫力は観客を圧倒した。

○今後の対応等

- ・財団が公演ごとに行っているアンケート結果では、公演の感想を「よかった」、「たいへん良かった」と回答した率がほぼ全ての公演で90%を超えており、入場者には満足していただけた公演内容であったが、中には十分な来場者がいない公演にもったいないという感想も見られた。
- ・ワークショップの開催やワンコインコンサートなど気軽に芸術に親しんでもらえる環境づくりを継続する他、徐々に本格的な公演を鑑賞してもらえる工夫をする。また、小中学生等若年者の公演招待等を通じ、小さな頃から芸術に親しむ環境づくりに努める。
- ・県民の期待に応え、より多くの方が満足できる公演を実施するため、アンケート調査等により入場者の声の反映に努めるとともに、企画方針に基づき、費用対効果にも留意しながら質の高い公演内容の維持に努める。
- ・オペラの共同制作や県民中心の総合舞台芸術公演制作を通じ、国庫補助なども活用しながら制作費用を押さえつつ本格的な舞台公演を県民に提供できるよう努める。
- ・県立美術館開館を契機に、音楽と美術、舞踊など異なるジャンルの芸術が出会い、融合することで新たな価値を生み出す充実した事業が展開できるように工夫していきたい。

c 創造系事業・普及系事業

○「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」

- ・地元大分や国内で活躍する先生方の指導のもと、子どもたちのオーケストラ活動が順調に進展した。
- ・年度末の定期演奏会では大曲に挑戦し1,130名の来場者に演奏を披露したほか、弦楽や管楽器アンサンブルによる出張演奏を行うなど、一層活動の幅を広げた。

○レクチャー、ワークショップ事業

- ・ミュージカルの分野で実演や発表の場を取り入れると共に、遠隔地でワークショップを開催するなど内容を充実させて効果を上げたほか、伝統芸能やオペラなど鑑賞が難しいと思われがちなジャンルについて分かり易く解説や実演を交えるなどの工夫で、舞台芸術の愛好者を増やすことが出来た。

○今後の対応等

- ・「人づくり事業」の参加者は、将来の顧客（入場者、施設利用者）ともなりうるので、ニーズを汲み上げながら内容の充実、深化を図るよう引き続き努力していく。
- ・あわせて、日頃は公演を鑑賞する機会の少ない小中学校の生徒等を公演鑑賞に招待し、本物の芸術に触れていただく機会をつくる。
- ・地元洋舞連盟とのバレエ共同制作や県民によるミュージカル創造など、より多くの県民が芸術活動に参加できるよう工夫を凝らしていきたい。

7-2 美術館利用者アンケートに基づく課題分析の結果、業務改善の実施状況及び自己評価【美術館】

(1) 利用者アンケート調査の実施状況

①調査の概要

貸館主催者28団体に展覧会終了後にアンケートを提出していただいた。

②結果分析

主な回答は以下のとおり。

(感想等)

- 新しい美術館での開催となり、入館者が例年より増加した。
- 非常に立派な会場だった。
- 天井に高さがあり、奥行きも含めて会場に満足した。
- 初めての対応で不安もあったが、スタッフの対応も親切で感謝している。
- 警備、カフェ等の対応も好評だった。
- 期間中、友の会向けロビーコンサートの相乗効果で多くの来場があった。

(要望等)

- トイレ等の表示がわかりにくかった。
- 夕方になると来館者が少なくなる。
- バックヤードに休憩室があると良かった（展示室A利用者）
- 来場者への駐車場サービスをお願いしたい。
- 展示室可動壁に汚れがあった。
- 可動壁の設置に時間がかかる。
- 搬入口が1箇所しかないため時間を要する。

特に「入館者が例年より増加した。」「スタッフの対応が良かった」という意見が多く、満足度の高い回答をいただいた。

(2) 業務改善の実施状況

施設利用者や入場者からの意見、要望に対して、次のとおり業務改善を行った。

- 「コレクション展が開催されているかわかりにくい。」「出入り口がわかりにくい。」「トイレへの案内がわかりにくい。」など、誘導サインについての意見が多くあり、案内板の増設、表示文字の拡大をはじめ、常に改善に取り組ん

だ。

○「ホームページ上のアクセスマップがわかりにくい。」という意見を受け、これまで掲載していた google マップに加え、近隣のアクセスマップを追加した。

○「トイレの便座クリーナーを設置してほしい。」という意見を受け設置した。

○受付、監視スタッフに対する苦情があったため、委託業者においてケーススタディを中心とした研修を定期的実施した。

○可動壁の汚れについては、利用後に職員でパテ埋めをし、次の利用者に引き渡すなど、次の利用者に気持ちよく使っていただける環境づくりに努めた。

(3) 指定管理者としての全体的な自己評価

① 事業評価委員会の開催

2月11日(木)に美術館の企画内容について、有識者の意見をいただく事業評価委員会を開催した。自己点検評価表等により説明を行なった後、「来館者50万人という目標数値に向け、県立美術館の展覧会に求められるものは何か」、「大分県民の支持を得られる美術館とは何か」に対して意見を求めた。

今後は評価委員会での意見も参考に、目標に向かって企画展を実施していく。

(委員の意見)

○進撃の巨人展までは勢いがあったが、秋以降に失速した印象。

○美術関係者からの評価は高いが、一般にはわかりにくかった。

○水平折戸の活用

○展覧会自体は意欲的かつ新鮮で評価できる。

○都会的なものを見せるだけでなく、地元の求める部分を見せるバランスが必要。

○教育普及活動を体制の中でしっかりやること、まずは先生に対する教育普及活動の強化が必要。

○他県に行かなくても見たいものが見られるという県民が求めているものと、これまで考えもしなかった新しいチャレンジ。この二つを両立させることが課題。

○作品選定、展示において、何故これが選ばれたのかななどの説明があれば、観覧者がわかりやすく面白くなったのではないか。

○これから鑑賞者になっていく小学生を全員招待したのは意味があること。

○コレクション展では大分にこれだけのお宝があるんだと、非常に新鮮だった。

② 業務の取り組み内容に関する評価

ア 施設及び設備の維持管理及び修繕

○開館初年度ということもあり、常に職員が高い安全意識を持ち、県をはじめとした関係機関との連絡調整を徹底しながら管理・運営を行った。

○エレベーターなど専門性を有する設備等については、業者による点検を定期的実施したほか、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立した。

○駐車場については、入出庫及び駐車が円滑に行なわれるよう管理体制を整備した結果大きなトラブルはなかった。

イ 施設の利用及び利用者の便宜共用

a 施設利用に係る申込受付等の対応

○施設利用の受付では、全ての利用者が新規となるため、円滑に利用出来るよう、施設概要の十分な説明を行った。

○展示室の利用にあたっては、必ず事前に施設利用者と財団職員で打合せを行ない、催事の円滑な実施に努めた。打合せの際にはこれまで総合文化センターで実施してきた打合せ方法に準じて行なったことにより、スムーズな催事運営が可能となった。

b お客様からの要望や意見等への対応

○利用者の声を直接受け入れるため、美術館内に意見箱を設置した。提案されたご意見に対し、実現可能なものから改善に取り組んだ。

8-1 施設設備の維持管理状況【総合文化センター】

(1) 建築物及び建築設備の維持管理業務

① 日常の点検業務

適正な管理を実施するため、日常の点検に力を注いだ。特に各施設の使用後点検を中心に異常箇所の早期発見に努めることで、ホール客席の不具合や手摺のがたつき等施設・設備の異常に素早く対応し、次の施設利用者が安全に催事を実施できる環境を整えた。

② 長期改修計画の作成

当施設は開館後18年が経過し、建物や機器については今後、高額な改修費用が生じてくる。施設利用者に安全に施設を利用いただけるように、また、費用負担の大きい改修工事を計画的に実施できるように、県施設整備課と共同で長期改修を計画し実施している。27年度はiichiko グランシアタ舞台機構（吊り物ブレーキ装置）改修工事及びiichiko 音の泉ホールの音響設備改修工事を実施した。

③ 建築設備の維持管理業務

各建築設備においては4月1日付けで締結した委託業務契約に基づき、次のとおり定期点検等を実施し、正常な状態の維持管理に努めた。

・衛生設備

点検の結果、雑排水槽・汚水槽において故障や不具合はなかった。また、環境汚染等が発生しないよう、適正に点検、測定、調整を行った。

また、美術館の衛生設備と併せて契約を締結し、スケールメリットを活かした管理を行なった。

- ・昇降設備
エレベータ、エスカレーターについては、定期的に安全装置の調査を行ったほか、必要に応じて機能試験を行い、事故や不具合を未然に防いだ。
- ・電気設備
施設の各高圧受電室における接地抵抗測定、高圧絶縁抵抗測定、保護継電器試験、高圧ケーブル絶縁診断試験、受電設備盤内高圧機器点検及び清掃等を実施した。
- ・その他設備
ゴンドラ保守点検、通信弱電設備及び自動ドア保守点検、空気環境測定、飲料水水質検査について、施設の安全かつ快適な利用を維持するために点検業務を適正に行った。

(2) 舞台機構・音響設備・照明設備の維持管理業務

① 舞台機構

三精テクノロジーズ（株）九州営業所と締結した委託業務契約に基づき、各ホールの迫り、音響反射盤、バトン等の舞台機構については、毎月1回定期点検・調整を行い（8月、1月は電気制御装置保守点検をあわせて実施）、設備の初期性能を維持するとともに、障害を未然に防止した。

② 音響設備

ヤマハサウンドシステム（株）福岡営業所と締結した委託業務契約に基づき、以下の保守点検を6月と1月の年2回実施した。iichiko 音の泉ホールの備品に不具合箇所が増えていたため、県で実施する大規模改修で音響設備の改修を計画的に実施した。その他、軽微な修理等は委託先の負担により対応した。

- ・音響調整卓、効果卓
- ・電力増幅器
- ・各機器の接点及びスイッチ関係
- ・I T Vカメラ、モニターテレビ等 I T V設備
- ・その他点検を必要とする音響機器

③ 照明設備

丸茂電気（株）福岡営業所と締結した委託業務契約に基づき、以下の保守点検を6月と12月の年2回実施した。軽微な修理等は委託先の負担により対応した。点検の中で催事に支障をきたすような異常はなかった。

- ・調光主幹盤に関する点検、調整、増す締め
- ・分岐盤に関する点検、調整、増す締め
- ・サイリスター調光器盤に関する点検、調整、増す締め、各負荷回路の絶縁抵抗試験、調光出力電圧測定
- ・照明操作卓に関する動作試験、各種波形測定、調整

- ・舞台袖操作盤、各動作点検、調整
- ・舞台照明機器類及びボーダーケーブルの点検、整備

(3) 備品等の維持管理業務

- 舞台、練習室、楽屋、会議室、県民ギャラリー等の備品については、施設の運営に支障をきたさないよう、適正な管理を行った。
- 利用頻度が高く公演の出来を左右するホール貸出用ピアノについては鍵盤、ハンマー、ペダル、整音等の保守点検を実施することで高い水準を保持した。
- 貸出施設の備品において劣化の見られるものについては、新規で購入し気持ちよく利用していただける環境を整えた。
(会議室用会議机、会議室用ホワイトボード、移動式マイクセット等)
- その他の備品管理についても、固定資産台帳及び備品台帳を設け、定期点検による管理を行うことで良好な状態で効率的に使用できるよう適切な管理を行った。

(4) 植栽等の維持管理業務

- 大分市シルバー人材センターと締結した委託業務契約に基づき、ホールや iichiko アトリウムプラザに配置された39本の自然木を当施設の愛称であるオアシスにふさわしい環境づくりのもと、灌水、施肥、剪定、枯葉撤去等を定期的に行った。
- 美術館の植栽管理業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(5) 清掃業務

- 第一ビル管理(株)と締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行い、快適な空間を提供することができた。
 - ・日常清掃(日又は週を単位として定期的実施)
 - ・定期清掃(月を単位として定期的実施)
 - ・使用後清掃(ホール等使用後に実施)
 - ・特別清掃(6か月を単位として定期的実施)
 - ・廃棄物処理(1日1回実施。ただし休館日、土・日・祝日を除く)
 - ・害虫駆除(6か月に1回実施)
- 美術館の清掃業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(6) 保安警備業務

- (株)NIKKOと締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行い、施設内の秩序を維持し、事故や犯罪、災害から来館者の安全を確保した。
 - ・インフォメーション業務
 - ・楽屋口警備業務(大ホール、中ホール)
 - ・駐車場警備業務
- 美術館の駐車場警備業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを

活かした管理を行なった。

- 複合施設の統括管理者である(株)エフ・ティー・シー大分と密接な連携を図り、iichiko アトリウムプラザなどに配置された警備員や防災センターを中心とした保安体制を取った。

(7) 施設及び設備の軽微な修繕

- 職員による日常点検のほか、防災センター、舞台スタッフ等と連携して、軽微な修繕が必要な箇所についても直ちに発見できるように努めた。
- 現場で対応が可能な修繕については専門技術スタッフを擁する防災センターに依頼し、それ以外の修繕については、直接業者に早急な対応を依頼した。

8-2 施設設備の維持管理状況【県立美術館】

(1) 建築物及び建築設備の維持管理業務

○ 日常の点検業務

美術館の各施設・設備については、開館までの間、県及び施工業者から取扱説明を受けるなど円滑に管理運営するための知識習得に努めた。また、開館後の日常点検については設備保守の契約を締結した合同産業(株)と連携し的確な点検により適正な管理を行えるよう、日々の工夫を重ね、確認された初期不良については速やかに県に報告し、協議を行なった。

○ 維持管理業務における情報共有

業務委託受注者と、情報共有や意見交換を行なう場として、月2回の委託業者連絡会議を実施した。

(2) 備品等の維持管理業務

○開館前の県購入備品の搬入に立ち会い、備品台帳を整理するなど適切な維持管理に努めた。

○開館後、備品に不具合が生じた場合は、県及び美術館設計事務所と連絡を取りながら改修を加えるなど、お客さまが安全に利用していただける環境を創出した。

(3) 植栽等の維持管理業務

○総合文化センターの植栽管理業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(4) 清掃業務

○第一ビル管理(株)と締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行った。

- ・日常清掃(日又は週を単位として定期的実施)
- ・定期清掃(月を単位として定期的実施)
- ・使用後清掃(展示室等使用後に実施)

- ・特別清掃（6か月を単位として定期的に実施）
- ・廃棄物処理（1日1回実施）

○総合文化センターの清掃業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

（5）保安警備業務

○美術館内の警備業務については、日本連合警備（株）と締結した委託業務契約に基づき業務を行い、施設内の秩序を維持し、安全の確保に努めた。

○駐車場等外構警備については、（株）NIKKOと締結した委託業務契約に基づき業務を行なった。総合文化センターの駐車場警備業務と併せて契約を締結し、満車時の他施設への誘導などを徹底して行なうなど一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

（6）IPM（総合的病害虫管理）管理業務

○文化財保護の観点から、美術館特有の業務としてIPM管理業務があるが、イカリ消毒（株）と締結した委託業務契約に基づき業務を行なった。業者と財団スタッフによる定期的なモニタリング報告会に加え、警備・清掃・カフェ・ショップなど、関係業者が参加しての講習会を開催するなど、全館体制でIPM業務に取り組んだ。

（7）施設及び設備の軽微な修繕

○職員による日常点検ほか、設備委託業者等と連携して軽微な修繕が必要な箇所についても直ちに発見が出来るように努めた。

○開館後間もないため、多くの初期不具合が見られたが、県・美術館設計事務所・業者等と密に連絡をとり、スムーズに改修を行なった。

○引渡しから1年が経過し、県・美術館設計事務所・業者による瑕疵責任調査とそれに基づく修繕業務を行なった。その後も継続して修繕箇所の調査や情報提供を実施した。